

平成22年度・第39回 かなえ医薬振興財団 助成金公募を開始しました！

「かなえ医薬振興財団」は、今年で39回目を迎える「研究助成金および海外留学助成金」の公募を開始しました。医学・薬学及びその関連領域における若手研究者を対象に、研究助成を行なっています。研究助成の交付金額は4,300万円（1件100又は200万円）、また海外留学助成の交付金額は1,800万円（1件120万円）を予定しています。

応募資格：40歳以下（海外留学助成は35歳以下）の医学、薬学およびその関連領域における研究者

応募領域：研究助成金／海外留学助成金とも、臨床医学1～4、及び基礎医学1～2の全6領域。

■臨床医学1：神経／脳

■臨床医学2：循環器

■臨床医学3：消化器／代謝

■臨床医学4：呼吸器／その他

■基礎医学1：癌／免疫／ゲノム／感染

■基礎医学2：神経／薬理／薬物動態／その他

募集期間：6月1日～7月31日（必着締切）

審査：10月の選考委員会で厳正に審査し、理事会の承認後10月末に選考結果を応募者へ通知

詳しい情報は財団ホームページをご覧ください。申請書等がダウンロード出来ます。

→ URL：<http://www.kanae-zaidan.com/>

◆財団 理事からのメッセージ



“継続した研究”を

かなえ医薬振興財団 理事 越智 隆弘（大阪警察病院 院長）

「最近医学部出身の研究者が減ってしまった。」という声をよく耳にする。以前は若い医師の医学的思考を深めるために学位取得が望ましいと否応なしに研究に携わることになった人々も多かった。近年になり、専門医制度の整備・充実が急速に進められ若い医師には必須とも言える到達目標となり、学位制度への拘りが減った。

このような医学環境の中で医学研究は、本気で夢を追求し“継続した研究”の創造を目指す若手研究者に委ねられることになった。日本の医学研究者の総数は減ったが、本物の若手研究者は減ってないことを本財団への応募課題から実感する。今の課題をより高いレベルでまとめ、次へと挑んでゆく。その過程で得た若い日の賞はより高いモチベーションを引き出し、大きな飛躍へと導くに違いない。

長い医学研究生活の中で大輪の花を咲かせる研究者も居れば、ひっそりと地味な花を育てる研究者も居る。“未知の解明”というワクワクした興奮を伴って全力で挑んでゆく“継続した研究”は、まさに研究者の人生であり、芸術とも言えるのではなかろうか。

◆財団 評議員からのメッセージ



今がそのとき

かなえ医薬振興財団 評議員 谷口 克

(独立行政法人 理化学研究所 免疫アレルギー科学総合研究センター センター長)

日本は少子・高齢化社会を迎え、経済政策ばかりでなく、科学技術政策もこれまでとちがった観点からの取り組みが必要となっている。税収が落ち込み、民間資金の活力も失われるなかで、将来設計に何をしなければならぬかを考える時期に来ている。衰退期に突入している社会を支える仕組みを構築するために、それぞれの立場で考え、今何を成すべきか、将来にむけて何をすべきかを発信する

ことが重要である。

科学技術は近代国家の礎であるが、残念ながら近年、我が国においては、長期的な展望に立った目標設定の基に、計画が立案されたことはない。科学技術政策大綱や科学技術基本計画は、せいぜい5年計画しか示していない。しかも、どのような展望から、それが最優先課題として取り上げられたのか多くの場合不明である。各国の政策を見ながらの決定が大半を占めている。それらも政策決定に重要な要素ではあるが、「国家100年の計」とは言わないまでも、少なくとも10年、20年の中期的な到達目標の策定が必要であろう。その到達目標を達成するための国家事業としての科学技術政策大綱や科学技術基本計画であるべきだからである。まさに、今が、その時である。

その意味で、研究者個人も、常に自分の立ち位置の中で何が最重要課題なのかを自問することが必要であり、研究費の伸びが困難なこの時期を、長期的な展望に立った新しい目標設定を考え、発想の転換をする好機であると捉えるべきである。

◆歴代受賞者からのメッセージ



第30回(平成13年度)研究助成金受賞者

石井 一弘 (筑波大学大学院人間総合科学研究科 臨床医学系 神経内科 准教授)

大学院時代、留学中そして帰国後とアルツハイマー病におけるAβ蛋白の神経細胞毒性およびミクログリア活性化機序の課題でin vitroの極めてコントロールされた系での研究を行ってきました。平成15年茨城県神栖市における有機ヒ素化合物(ジフェニルアルシン酸)中毒を発見してから、私の研究テーマはガラリと変わってしまい、有機ヒ素暴露者を対象にした、自らは全くコントロール不能の疫学・臨床医学研究にシフトせざるを得なくなり、社会的問題にも巻き込まれながら現在に至っております。本中毒は過去に報告例がなく、中毒の症状・症候、毒物の体内動態も不明で、まさに患者診察から症候をまとめ、検査データを解析し、新しい中毒疾患として発表しました。また臨床研究や動物実験の結果から、ジフェニルアルシン酸の標的臓器は中枢神経で長期間蓄積すると言う特異性が明らかになりました。さらに本中毒の診断や治療に有用なバイオマーカーの確立へと研究を進めております。生体試料からの新規中毒物質の分離・同定やモデル動物による実験を速やかに計画し、実施できたことは、アルツハイマー病の基礎研究で培った手法が大変に参考になりました。研究的視点を持ちながら臨床を行うことも、また新しい疾患の発見に繋がると思います。多くの若手研究者の育成を続けている「かなえ医薬振興財団」が益々発展されますことをお祈り申し上げます。



第 32 回（平成 15 年度）研究助成金受賞者

長谷川 潔（東京大学大学院医学系研究科 臓器病態外科学 肝胆膵外科 准教授）

2003 年（平成 15 年度）第 32 回の研究助成金をいただきました。受賞当時、私は大学院を卒業した直後で、臨床現場に復帰したものの、臨床と研究のバランスや己の立ち位置（大学なのか、センター病院なのか、一般病院なのか）など、以降の方向性が自分の中で明確ではなく、大げさな言い方ですが、身の振り方に迷っていましたが、今から考えると、外科医として、本来あるべき姿を考えれば、選択肢はおのずと決まったはずで、単に無知のなすゆえ、だったわけですが、当時は真剣に悩んでいました。とくに研究は続けたいと思っていましたが、外科医でありながら、研究者としても存在感を示せるのか、まともな成果をだせるのか、時間はあるのか、研究費は獲得できるのか、問題が山積していました。そんな中、臨床のテーマでかなえの研究助成をいただいたことは非常に大きな意味がありました。今でも問題点は解決したとはいえませんが、臨床的な研究でも評価してもらえると実感できたことは大きかった、と振り返ってみて、思います。それから早くも 7 年がたちましたが、手術のスキルを磨きつつ、臨床研究を並行させるスタンスでやってきました。41 歳になり、もはや自分の方向性に「惑うことはありません」が、「而立」すべきときに、まだそうではなかった自分に力を与えてくれた「かなえ医薬振興財団」と関係のみなさまに、あらためて深謝いたします。

◆海外留学レポート

第 36 回（平成 19 年度）海外留学助成金受賞者

檜井 栄一（金沢大学医薬保健研究域薬学系 准教授）

留 学 先：コロンビア大学遺伝発生学研究室

研究課題：骨組織による糖代謝および脂質代謝調節機構の解析

ご存知のように、ニューヨークは世界各国から観光、就労、語学留学などを目的として多くの人々が集まります。私が留学したコロンビア大学はニューヨークマンハッタン島の 168 丁目のメディカルセンターと 125 丁目のメインキャンパスの二つのキャンパスから構成されています。私が所属していた Dr. Gerard Karsenty の研究室はメディカルセンター内にあり、研究室からはマンハッタンのダウンタウンが一望できる、非常に眺望のいい場所にあります。Dr. Karsenty の研究室では骨代謝研究と糖脂質代謝研究が行われています。「一見まったく関係のないこの 2 つの分野は実は非常に密接に関連している」、ということをお知らせすることが私の研究テーマでした。アメリカでは研究活動の時間が短いと聞いていましたが、当研究室はほとんどすべてのポストドクが早朝から深夜まで、土日を問わず研究活動を行っていました。3 年という短い留学期間でしたが、貴財団からの海外留学助成により、純粋に研究活動に集中することができ、日本では得ることのできない貴重な経験を数多く積むことができました。そしてその経験が、日本で研究活動を行っていく上における強固な礎となっています。最後になりましたが、このような機会を与えてくださいました、貴財団に厚く御礼申し上げますとともに、貴財団のますますのご発展をお祈り申し上げます。



◆平成 21 年度 事業報告

〈研究助成事業〉

平成 21 年度 第 38 回の助成事業は、6 月より公募を開始し 7 月 31 日をもって締切り、研究助成金 554 件、海外留学助成金 156 件の応募がありました。10 月 7 日の選考委員会で厳正な選考が行われ、理事会の承認を受け平成 21 年度の研究助成及び海外留学助成が決定されました。研究助成金は、1 件あたり 100 万円又は 200 万円で計 40 名に総計 4,300 万円が贈呈されました。また、海外留学助成金は 1 件あたり 120 万円で計 16 名に総計 1,920 万円が贈呈されました。

〈業績集の発刊〉

平成 19 年度 第 36 回の研究助成金受賞者の研究報告書を纏めた「受賞者研究業績集 第 36 集」を 9 月に発刊いたしました。該当の先生方にはご多忙のところ、貴重な時間を割いてご協力いただき深く感謝申し上げます。

■収支決算報告

正味財産増減計算書

平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日

(単位：円)

科目	金額
・経常増減の部	
基本財産受取利息	480,000
特定資産受取利息	136,000
受取寄付金	68,000,000
雑収入	81,198
経常収益計	68,697,198
・経常費用	
事業費・研究助成金	43,000,000
・海外留学助成金	19,200,000
・業績集発行費	1,050,809
管理費	8,630,165
経常費用計	71,880,974
経常外費用計	0
当期経常増減額	-3,183,776
一般正味財産期首残高	43,336,926
一般正味財産期末残高	40,153,150
指定正味財産期末残高	120,000,000
正味財産期末残高	160,153,150

貸借対照表

平成 22 年 3 月 31 日現在

(単位：円)

科目	金額
・資産の部	
流動資産	6,153,150
固定資産	154,000,000
資産合計	160,153,150
・負債の部	
流動負債	0
固定負債	0
負債合計	0
・正味財産の部	
指定正味財産	120,000,000
(うち基本財産への充当額)	(120,000,000)
一般正味財産	40,153,150
(うち特定財産への充当額)	(34,000,000)
正味財産合計	160,153,150
負債及び正味財産合計	160,153,150

発行

財団法人かなえ医薬振興財団 事務局

〒163-1488

東京都新宿区西新宿 3-20-2 サノフィ・アベンティス (株) 内

Tel : 03-6301-3090 FAX : 03-6301-3094

E-mail : kanae.zaidan@sanofi-aventis.com

URL : <http://www.kanae-zaidan.com/>

■ご協力お願いします

このニュースレターは歴代の助成金受賞者の皆様を中心にお送りさせていただいております。もし、送付先に変更がありましたら、登録情報を更新させていただきます。お手数ですが email 等でご連絡いただきますようよろしくお願い申し上げます。